若者の視点 尚絅大学生によるレポート 33

大津町議員との意見交換会を終えて

さる10月11日（水）に、尚絅大学九品寺キャンパスにて大津町議会の広報委員5名と尚絅大学現代文化学部「社会調査法実習」の授業受講生（4年生）とで意見交換会を行いました。この受講生たちは1年生の時にも大津町の議員たちと交流したことがあり、3年後に改めて話をうかがうとどのような感想をもったのでしょう。TSMCと大津町の今後が中心的な話題の一つでした。以下学生の声を抜粋し紹介します。

4年 清田（きよた） 紗帆（さほ）

議員の方のお話の中で「今後TSMCによりさらに発展していく中で欠点はたくさん出てくると思うが、それを利点に変えていくのが議員の務めである」という話に感心した。

議員は住民の代表として町をよくするために活動してくださるので、私たち住民は少しでも問題を解決するために多文化共生やゴミ分別を受け入れるなど、住民にできることを行うことで町の発展につながりやすくなると思う。

議員の方々が、住民の方に町の広報誌を読んでもらえるよう、多くの工夫を重ね作られていることを初めて知った。自分の町にも毎月広報誌が届くので、積極的に読むようにしたいと感じた。

4年 六ケ所（ろっかしょ） 蒼（あおい）

議員の方々と話す中で、普段は議員の仕事とは業界・職種が全く異なる職業に就いている方々が少なくないことを知り、それまでより議員の方が身近に感じられた機会でもあった。

交通渋滞、土地開発、外国人人口増に伴う多文化共生の課題、人材不足など、複合的な課題が多数あるため、TSMC進出に伴う町づくりについて、議会のみならず地域全体で取り組むべき問題なのだと改めて感じた。

4年 濱田（はまだ） 季子（きこ）

熊本は選挙などでも保守的な傾向にあるという話もあるし、私自身も自分が住む場所が大きく変化するなら希望や喜びよりも不安や不満の方に考えが寄ってしまう方である。

現に前例がない規模であり人口の急増や移住する外国人のサポート、土地の問題に地下水の保全といった課題も多い中、自分たちなりに考えて対策を練り、町を発展させるチャンスにしようとする議員たちの勇気が凄いと思う。

議会だよりや議会のQRコードなど、町民の方たちにもっと興味を持ってもらえるように工夫されているのをみると、町全体で意見を出し合い、より良い町にしていきたいという姿勢が喜ばしいと思った。

○議会への提言・疑問・質問などをお寄せください。

○今回の議会だよりで関心のある記事や感想があればお書きください。また、もっと読みたくなるような「アイディア」があればお寄せください。

翔陽生　大津町議会傍聴に！！

2023

9月13日(水)、大津町議会（一般質問2日目）の様子を翔陽高校2年次生12名(政治経済受講者)が傍聴させて頂きました。大津町以外から通学している生徒が多いので、大津町議会に初めて訪れた生徒がほとんどでした。始めの良さに感動するとともに、議会の雰囲気を肌で感じ取った生徒たち。その生徒たちのレポートの中から一部をご紹介します。

傍聴後、傍聴の感想やアンケートに答えました。

福田（ふくだ） 悠斗（ゆうと）（大津中出身）

議員さんはもちろん、傍聴者の方々も静かに話を聞いており、唯一聞こえるのは資料をめくる音だけでした。また議員の方も主張するときはとことん主張する姿は印象的でした。また今回傍聴席に座った際に、報道陣の方が座られる後ろに座ることができ、議会全体を見るとともに、報道の方が質問や回答を聞きながら、まとめている姿も見ることができ新鮮でした。議題として挙がっていた内容に関しては、人口増加や新しい大手企業の建設に伴い、様々な面において資金のやりくりが難しいんだろうなと思いました。資金がなくてもできることはあるかもしれないけれど、早急に対処しなければならない問題もあるため、資金や人材の確保は大きな壁なんだな、と感じました。

小川（おがわ） 結花（ゆいか）（武蔵ヶ丘中出身）

議会では、教育長の人や町長などの回答も議員さんたち質問者も真剣に考えており、雰囲気は少しピリピリして緊張感がありました。しかし休憩の時間になったら、その雰囲気が一変しているのが驚きました。傍聴前の事前学習や傍聴を実際にすることで、大津町には交通量が増えたことによる交通事故の増加が課題にあると考えました。私たちのように町外から来る高校生などが電車やバスなどの公共交通機関を利用するなど、大津町の課題と少しでも関わりを持つことで、課題解決の一助になると考えました。

前田（まえだ） 成斗（なりと）（阿蘇中出身）

緊張した雰囲気がこちらにまで伝わってきました。傍聴した内容については、小学生や中学生などの安全を第一に考えた質問で、実際にその場所に足を運んで確認した上での相手の立場に寄り添っている感じがして嬉しく感じました。また、今誰かが感じている危険個所や直してほしい所に、気づいているのに人任せにしているのではなく、何事も誰かに発信して、大津町や自分が住んでいる街をより住みやすい場所にしていくためにも、声を出したり行動に移せるような大人になりたいと思いました。

湯野（ゆの） 敬太（けいた）（西合志南中出身）

議会の雰囲気はとてもしっかりしていて、見ているこっちも緊張しました。また、思っていた以上にモニターの数が多く、傍聴している側も見やすく分かり易かったです。質問の返答が不十分だった場合の再質問や再々質問をする機会があることを初めて知りました。議題内容については、自分も町外から学校に通学してくる際に感じてる課題の一つでもあったので、納得する箇所もありました。

東（ひがし） 美幸（みゆき）

（龍田中出身）

傍聴前は大津町の抱える課題や、意見交換の場がこのように開放されていることをあまり知らなかったので、今回このように傍聴させていただく機会があり嬉しかったです。実際に傍聴してみて日常の中にある新しい課題が見えてきたのも事実です。議題内容については「いじめ防止プログラム」に関するものが印象に残りました。アメリカで導入されているプログラムということですが、町民の方々にはなじみが薄い分、理解しにくい面もあるのではないかと思いました。まずは参考に導入することも大事だとは思いましたが、大津町独自の対策についても意見交換をしていただけると、子どもたちにとって住みやすい街づくりにつながるのではないかと感じました。

◆「通学路の安全対策」について

○TSMCなどの大手企業の建設に伴い、人口増加に対応すべく、大津町内には新たな住宅街の設置等工事されている箇所が多くみられる。また翔陽高校生は町外から登校している生徒も多数を占め、最近の通学時間における自動車渋滞やそれに伴う事故の増加に危険を感じるとともに、課題を感じている。そこで、今回傍聴したこの議題内容は非常に関心深かったようだった。見守りカメラの設置、危険個所の補修作業、交通安全プログラムについて、町民にも声を大にして伝えていただきたい内容ばかりだった。また通告なされた議員の方が実際に現場に足を運ばれ、地域の方々の声を町に届けるべく動いている点において、議員の方々の役割を再認識することにもなった。

◆「いじめ対策」について考えた

○高校生にとって、身近な問題の一つとして考えることができたものだった。教育の一つ一つがエビデンスに基づいたプログラムなどを導入していることや、現在町内で行っているプログラムや現状を伝えていただくことで、学生として気づいていないことを改めて気づかされた。欧米で成功しているプログラムがどのようなものなのか、がまだ分からなかったため傍聴後各自で調べ、考え直してみた。このプログラムをそのまま導入するのではなく、大津町オリジナルのものとして導入検討を考えた動きを願う。

（引率職員：公民科　佐々木絵里奈）

傍聴後、講師から考える質問を続けました。